

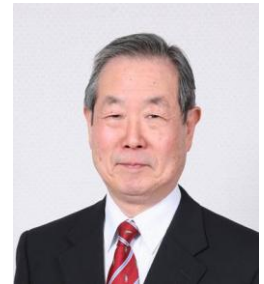
### 特集：2010 年度後期「研究授業」報告

## 学生の要求に応じて授業改善を

### 学生はレベルの高い教育を求めている

健康科学部長 FD 推進委員会委員長 **金子章道**

本年度最後の発行となる FD ニュースには平成 22 年度後期の研究授業を担当された先生方の授業内容とその反省が寄せられている。ご担当の先生方にはお忙しいなか、研究授業を担当され、さらにこの原稿を書いていただいたことに深く御礼を申し上げる。最近どの大学でも FD 活動に力を入れるようになったが、どちらかといえば「やらなくてはいけないのでやっている」という感も否めないようである。しかし、この原稿をお読みになればお分かりいただけるように、本学の FD 活動は決しておぼろげなものではない。担当された教員は皆真剣に学生のことを考え、より良い授業をするように取り組んでおられる。学部の責任者としてもとてもうれしく、感謝申し上げたい。



お蔭さまで畿央大学の今年度の志願者数は前年度比 60%増となった。多くの大学が志願者数の減少に悩んでいる中で驚異的な数字である。この数字は入学してくる学生のレベルアップにつながり、そのことはとりもなおさず、学生はよりレベルの高い教育を求めていることの表れだと私は受け止めている。こうした学生の要求に応えるためにも我々教員は一層の研鑽を積み、より良い教育を実現して行く責任がある。

新年度を迎えるに当たって、教員の皆様も気持ちを新たに新しいクラスの学生と向かい合っていただきたいと思います。

### <2010 年度後期「研究授業」>

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| ▲現代教育学科<br>「運動の科学」      | 辰巳 智則 先生<br>12月7日(火) 5限  |
| ▲健康栄養学科<br>「食文化論」       | 岩城 啓子 先生<br>12月8日(水) 1限  |
| ▲理学療法学科<br>「代謝系理学療法学」   | 松本 大輔 先生<br>12月10日(金) 2限 |
| ▲人間環境デザイン学科<br>「人間工学」   | 東 実千代 先生<br>12月15日(火) 5限 |
| ▲看護医療学科<br>「小児看護学援助論 I」 | 弓場 紀子 先生<br>1月27日(木) 2限  |



### <CONTENTS>

研究授業：『運動の科学』	2
研究授業：『食文化論』	3
研究授業：『代謝系理学療法学』	3
研究授業：『人間工学』	4
研究授業：『小児看護学援助論』	5

# 研究授業レポート

## レポート 01

### 「運動の科学」

現代教育学科

辰巳 智則

「運動行動」は、人間の様々な営みに共通の基盤となるものです。本講義の目的は、人間の運動行動に係る諸要因・概念を整理・定義し、その全体構造を捉え、運動の学習指導に係る基礎的情報を運動心理学の観点から提供するというものです。当科目は、保育士・小学校教員免許資格の必修及び選択科目であることから、教職志望の学生が受講生の大半を占めています。運動心理学は非常に幅広い研究領域で構成されているのですが、本講義では先述したような受講生の性格より、学習動機づけと運動学習の領域に焦点を充てています。しかし、受講生が将来、保育・教育実践に携わる際に必要とされる「運動に関する先行経験」、それは言わずもがな、当科目を学習する上で必要となる「運動に関する先行経験」でもあるのですが、実際にそこでなされていた経験関与の程度を含めると、実に様々な背景をもつ学生を講義の対象としています。従って、本講義で扱う運動現象は、歩行、文字を書く、PCの端末を打つという極めて日常的な運動技能から、数々の運動遊び、比較的高次の知覚-運動協応が求められるスポーツの運動技能に至るまで、その範囲は広範に渡っています。係る講義では、この方面の自然科学的な知や経験知・臨床の知を同期、時には交錯させながら、受講生の「運動に関する先行経験の構造化」を図ることをねらいとしています。受講生の多くは教職の道を歩んでいる訳ですから、子ども達と一緒に学び続けることを自らの生き甲斐としている。その前提で講義を進めています。また、私のこころの内には将来、一人、二人とこの方面の研究者が育って欲しいという想いもあります。「先行経験の構造化を図る」とは、この方面の生涯に渡る学習を可能にするための基本的素地を作る、つまりは、時々刻々と変化しうる社会や教育事情に柔軟且つ个性的に対応していく上での基盤となる学習レジネスを整えようとする趣旨を含んでいます。私の講義内容は、①運動行動に係る諸概念の整理・定義、②知覚-運動学習、③学習動機づけの3点に集約されます。これらの3点は自らの競技スポーツ経験や幼・中・大での運動・



スポーツ指導の経験、現場観察による印象に基づき抽出したもので、これらの観点から教授する意図はそれぞれ、①共通の言語で指導論を紡ぎ、発展させ、議論に応じ、批評に耐えうるための素地を養うこと、②昨今の学習指導の展開で垣間みられる不要なレベルの精神論や根拠の乏しい「自らの指導論」に逃避せず、知覚-運動系からボトムアップに指導法を確立していく姿勢を養うこと、③学習主体の理解を深め、自律した賢い学習者を育てること、に基づいています。心理学は、見えないレベルのものを記述する学問でもあります。なので、現象を慎重に扱わなければなりませんし、学生もこのことを知る必要があります。

最後になりますが、学生にとって、先行する学習経験を構造化していく作業は容易ではありません。学習（身に付く）とは、意識的制御に基づく遂行から、無意識の制御システムに基づく遂行への移行を可能にした状態を意味します。なので、学習時には一旦身に付けた運動行動を再び意識の支配下に戻すことが要求されることもあります。不安傾向の強いアスリートが競技試合の直前にこの作業を行うと致命的なパフォーマンスを招いてしまう危険性があるのですが、本学の受講生が「現場に立てる」という長い目で見た「学習」という観点からは、避けては通れない作業にも思われます。私はこうした授業を通して、学生に対し、「目先のテストのことばかりにこだわるなよ!」というメッセージを伝えようとしていますのかもしれませんが。





## レポート 02

### 「食文化論」

健康栄養学科

岩城 啓子

本科目は選択科目ではあるが、フードスペシャリスト資格試験受験のための必須科目であり、本学科ではほとんどの学生がこの資格取得を目指していることから毎年70名以上の学生が受講する。講義内容は、資格試験科目であるためにフードスペシャリスト協会認定教科書『フードスペシャリスト論』を基にして、本学科では他科目でより詳細に学ぶ食品学や食品衛生学などの分野を除き、『食文化』的な分野を膨らませて行っている。講義概要は、食の多様性、世界の食事文化、日本の食事文化、現代日本の食事文化の創造と変遷、食物史などであるが、私の土壌が理系であることの限界もあり現象論的な内容になっている。本科目の位置づけが栄養士や管理栄養士として必要な栄養に関する科目をみっちり学んでいる学生に対し、食の環境づくりの能力をも養おうというためのものであるので、あえて専門的な文化論ではなく理系の者が担当する科目になっているものと思われる。そこで、食の多様性や歴史に触れることを第一目的とし、直接に体験できない事柄はなるべくビデオなどを多用し目や耳に訴える授業展開を心がけている。



研究授業当日は、日本の料理様式と題して食器や食具の解説を中心に行った。成熟した社会では当然のことであるが、日



本食には多くの決まりごとがあり、特に食器は種類も多く食器そのものがご馳走という考え方をさえる。食器や箸の置き方などは日本人独特の美意識と合理性に則っている。授業では、箸の美しい取り方を体験してもらい、いろいろな陶磁器に触れその美しさを肌で感じてもらった。私自身が専門的に研究してきた分野ではないが、日本の美しい伝統を若い人たちにも伝承して欲しいという願いを込めて行う授業である。他科目では管理栄養士国家試験やフードスペシャリスト資格試験の出題を念頭においた『理解し覚える』ことを目的とした硬い授業ばかりになっているのであるが、この授業は覚えるというよりは記憶に留めてほしいと思って行っている。

さて、反省会（研究授業研究会）でカメラを通して観た自分の授業風景の感想であるが、90名近い学生が入った教室での講義は予想以上に距離感があり、こちらの意図が後ろの方には届いていなかったのではないかとこの危惧である。日頃は声の大きさにも自信があり大きな教室ではマイクも使用しているので後ろの隅々まで声は届いていると思っていたが、研究会で身にしみて感じたことは声が届いていることと意図が伝わっていることは別次元のことであるということである。ビデオでは、情報センターの方の編集のお蔭もあり声は確かに聞こえていたが、こちらの意図が最後尾の学生まで届いていたかどうか。今後は、マイクを通して声を伝えるばかりでなく、内容が学生一人一人に確実に伝わっているかどうかを頻りに確認しつつの授業展開を心がける必要性を痛感した次第である。

## レポート 03

### 「代謝系理学療法学」

理学療法学科

松本 大輔

この科目では、理学療法の対象疾患に合併している



ことが多い糖尿病や高血圧など生活習慣病を含む内

部障害の基本的な病態の理解やリハビリテーションを進める上でのリスク管理、運動処方、さらには疾病予防、再発予防、健康増進につながる運動、生活指導について講義しています。

4年生の臨床実習に向けて、今までの知識とつなげ、活用できるものにし、さらに多角的に考えられるように意識しています。

まず、前回の授業のポイントを前回使用したスライドを振り返りながら思い出し、アウトプットしてもらう。また、講義資料は事前に配布し、予習をする習慣をつくり、予習によって出た疑問を持ちながら授業を受けられるようにしています。授業方法では、臨床の現場をイメージ・理解しやすいように写真や映像を使ったり、自分で考え、自分の

思っていること伝えることができるように、グループディスカッションやロールプ



レイ、症例検討などを取り入れたり、意見や質問、体験できる環境づくりを心がけています。

内容としては、生活習慣病の改善・予防は医療以外に社会、経済などさまざまな問題にもつながる重要なテーマでもあるので、幅広い視野をもてるように、最新情報だけではなく、社会問題にもつなげたものにしていきます。また、「健康増進・疾病予防分野における理学療法の可能性」という課題を出し、自分がこれから就く職業を深く考える、向き合う機会をつくっています。

最後に私個人での一番の目標は「理学療法のことを好き、おもしろい！理学療法士になりたい！ともっと思えるようにする」ことです。全体を通して、知識のみを伝えるだけではなく、教員自身の考えを本音で伝えることで、学生と気持ちを共有し、一緒に考えていければと思っています。

このように、“いっちょまえ”の目標はありますが、なかなかうまくいっていません... まだまだわからないことだらけで試行錯誤の毎日ですが、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

## レポート 04

### 「人間工学」

#### 人間環境デザイン学科 東 実千代

今回、研究授業をいたしましたのは、「人間工学」という科目で、これは学科の卒業必修科目に指定されています。対象は一回生ですが、毎年数人の上回生が教室の前方に着席し、一回生より真面目に（反省の念を持って？）受講しています。

この科目は、基礎人間工学、環境人間工学、応用人間工学と三つの分野で構成し、最終的に「人」「環境」「製品・モノ」「システム」において、安全性・快適性を実現する相互関係を考察するための基礎知識を習得することを目的としています。基礎人間工学では、動作空間や作業域など人の動きと必要空間について、環境人間工学で、光・音・熱環境における人の心理生理反応とその個人差について、応用人間工学では、生活環境において人間工学の考え方がどのように生かされているのかを学びます。

研究授業は第10回目の講義で、テーマは「ヒューマンエラーを予防するためのデザイン」でした。ヒューマ



ンエラーは様々な分野で研究されていますが、人間環境デザイン学科の学生に対しては、ものづくりをする立場において、人が安全で快適に使用できる製品をデザインするために知っておくべき人の行動や認知の特性やエラーを回避するためのアプローチの方法の習得を主眼としています。

講義の導入部分では、日頃うっかりしてしまう失敗に関するアンケート調査を実施してもらい、その回答パターンを分類してみました。一言で「失敗」といっても、「やってしまう失敗」と「やり忘れる失敗」とで、対策が異なる点を理解させるためです。結果が同じでも原因が違えば対策が異なるわけですから、「なぜ？」を明らかにするのが重要です。

本論では「機械操作時にボタンを押し間違えた」という失敗を事例として、その原因の多様性について学生を指名しながら考えてもらいました。その後、アフォーダ



ンスやフェイルセーフなど、人の行動や認知の特性に関する概念を講義し、最後に、教室の黒板消し入れの改良デザインを課題として次週までに改善案を提出することとしました。黒板消し入れに「これはごみ箱ではありません。ごみを入れないでください」と記載されている点に着目し、講義内容を踏まえて課題を発見し、但し書きを書く必要のないデザインへの解決のアプローチを導き



出すためです。

必修科目ですから、興味の対象や進みたいコースが異なる学生がおり、専門科目と比較すると集中させる苦勞や、三時間目という時間帯から、睡魔に苛まれる学生が散見される等の問題を抱えていました。今回、VTRで自分の講義を受講する立場で聴く機会を得て、教壇に立った正面からでなく、学生側に座った背後からの反応を見ることができました。話すスピード、間のとり方、声の大きさ、学生への視線の配り方など、自分が想像していたものと実際の違いに驚き、改善に対する気づきも多く得ることができました。気恥ずかしいですが、自身を客観的に、立場を変えて観察する大切さを実感いたしました。

最後に、お忙しいなか、研究授業および研究会にご参加賜り、貴重なご意見を頂きました先生方に心より御礼申し上げます。

## レポート 05

### 「小児看護学援助論Ⅰ」

看護医療学科

弓場 紀子

「小児看護学援助論Ⅰ」では、健康障害が子どもの成長発達に及ぼす影響や子どもと家族（同胞を含む）に及ぼす影響、さらには、健康障害をもつ子どもと家族（同胞を含む）の看護が理解できることを到達目標としている。

小児看護学の場合、いかに学生が看護の対象である「子ども」という存在をイメージできるかが、臨地実習で健康障害をもつ子どもに最善の利益を守る関わりができるか否かに大きく影響する。看護医療学科の学生は、教育学部の学生と違って、皆が小児に関わる看護師を目指しているわけでない。そのため、子どもに対して「子どもは苦手」「子どもとどう関わっていい

かわからない」など、最初から敬遠している学生も少なくない。また、臨地実習の場においても、少子化や小児科



医の不足などにより、小児病棟の閉鎖や成人との混合病棟への吸収など、子どもの入院環境が悪化している施設で受け持てる子どもの数は限られている。

このような現状において、少しでも多くの学生に、まず子どもに興味・関心を持ってもらえるような講義をする必要がある。そして、その中で、学生個々が「子どもの最善の利益を守ること」が小児看護の目標であり、未来ある子どもの人生に関われるやりがいのある小児看護師の魅力を理解してもらえる講義である必要がある。そのためには、その魅力を知っている私自身が講義を通して学生と楽しいと感じられる時間を共有する必要がある。

今回の研究授業は、最終講義であった。この科目のまとめとなる。学生自身が自分の習得状況に気づき、不足部分分かる。そして、何を補わないといけないかが解ると同時に、担当者が到達目標の達成度を評価する講義である。方法として、前半は「やってみよう」と題し、個々に基礎的な知識の復習問題を解いてもらう。解らなければ、テキストやノートで確認する。その後、学生に解答を



発表させながら、補足説明し、ポイントを再確認する。そして、自宅ではその応用問題をやるように課題を追加する。後半は、「考えてみよう」と題し、作業を行う。机上の物はすべて片付けて作業用紙を前に取りに来てもらう。この間、学生は小休止できる。作業は、まず健康障害をもつ子どもとその家族の情報ラベルをハサミで切る。そして、ラベルを並べながら看護援助ラベルまで、どのように辿りつけばよいかを考える。自分の思考過程を取り出す作業である。この作業を通して、

学生は既習の知識を使って看護援助を導きだす看護過程の理解度を確認することができる。

授業研究会では、今回の方法について振り返りをしたり、「教師が学生に知っておいてほしい内容をいかに効果的に伝えていくか」という内容で意見交換を行ったりした。自己評価だけでは、気付かなかった視点に気付かせていただけるよい機会となった。この視点を忘れず、今後も創意工夫しながら、楽しい講義ができるように頑張っていきたい。

## もっと、もっと ご利用ください!!

情報センターの一角に教材編集ラボがあります。本学で最高レベルのスペックのパソコンを設置し、画像、動画編集をはじめ、教材編集に必要なソフトウェアを搭載しています。ぜひご利用ください。ご利用いただくときは、内線にて、情報センターに利用可能かどうかをご確認ください。



### スペック・・・

HP 製 型番：HPE-190jp  
OS：Windows7 64bit  
CPU：i7 920 2.66GHz  
メモリ：DDR3 12GB  
HDD：2TB  
グラフィック：GeForce GT230 1.5GB  
BlueRay+DVD 書込ドライブ

### 主なソフトウェア・・・

マイクロソフトオフィスとアドビマスターコレクション CS4 です。マスターコレクション CS4 に入っている主なアプリは以下の内容です。

Adobe Acrobat 9 Pro	PDF ファイルの作成・編集
Dreamweaver CS4	高機能なホームページ作成
Adobe Encore CS4	DVD の製作
Adobe Fireworks CS4	Web 向けの画像作成・出力
Adobe Flash CS4 Professional	Web コンテンツ、動画を作成
Adobe Illustrator CS4	デザインやグラフィックの作成
Adobe InDesign CS4	DTP ソフトウェア
Adobe Photoshop CS4	写真や画像などの編集
Adobe Premiere Pro CS4	動画の編集、出力